

1 利用したメディア等のねらい(第3～6時)「使用ソフト:メトロっぴと音楽7つの城」

- ・ 本ソフトは、パソコンの画面上で音楽に合わせて楽譜と演奏箇所を示し、演奏された音が絵譜上に緑色の点で表される。指使いのアニメーションも表示する。この利用により、児童は聴覚だけでなく視覚も十分に働かせ、意欲をもって学習に取り組むことができる。
- ・ 録音再生機能を効果的に使用することによって、個またはグループの課題や成果を見つけることができる。



「メトロっぴと音楽7つの城」の画面

2 指導の実際

(1) 単元のねらい

- ・ 音の高さに対する感覚を身に付け、階名暗唱をしたり、これをもとに楽器で演奏したりすることができる。

(2) 単元の構想図 付数字は時間

ドレミの たいそうで あそびましょう。



ドレミの 音のたかさを おぼえましょう。



ドレミで うたったり がっきで ひいたり  
しましょう。 教材曲:かっこう



うたに あわせて がっきをひきましょう。



グループ練習をする児童

(3) 第3～6時の指導から

第3時の導入時に聞いた本物のカッコウの鳴き声に喜んだ児童は、歌詞唱や階名唱に意欲的に取り組んだ。しかし、いざ鍵盤ハーモニカの演奏の学習になると、一本の指の動きに他の指もつられて動いてしまい自由に指が動かさない児童や、自分の音に関心を向けられない児童が目についてきた。正しい指使いや息の使い方を身に付けるための指導の工夫が必要であると感じ、パソコンソフト「メトロっぴと音楽7つの城」を利用したグループ練習を取り入れることを考えた。

はじめは、1グループは3～4人、能力が均等になるように構成した。グループで1台のパソコンを使うため、順番に演奏をし、グループ内で教え合いをしていた。ところが、次第に児童は不満の様子を見せ始めるようになった。個々のやりたいことがかみ合わなくなってきたからである。

そこで、第3時終了後、実態を把握し直すことにした。個々がどんな練習をしたいのかをもとに、まず3つに大きくグループ分けをした(資料)。その後、2つの観点「どのくらいの演奏技能を身に付けているか。」と、「児童相互のかかわりにより高め合えると期待できる組み合わせか。」から、グループを再編成した。同時に、教師が支援すべきことも明らかにした。

- 決めたフレーズだけを練習したい。(小さなステップを作って練習を進める。)
- 丁寧に自分の音をたしかめながら練習したい。
- 友達と合わせながら練習したい。

資料 個々がどんな練習をしたいのか

第4、5、6時は、再編成したグループで練習した。資料 のbの「丁寧に自分の音を確認しながら練習したい」グループの一つの班の編成を以下（資料 ）のようにした。

<p><b>児童 A</b> … <u>息づきを上手にして途中で切れないようにしたい。</u> フレーズのまとまりを意識しながら滑らかな表現ができるよう目指している。自分の音にたいへんこだわりをもっている。息が弱いので、<u>しっかりと音を出させ、音楽を楽しみながら、イメージ通りの演奏をさせたい。</u></p>	<p>レガート奏法 息づきのタイミング</p>
<p><b>児童 B</b> … <u>同じ音が続くとはねちゃうからはねないようにしたい。</u> 音楽を楽しみ、感性が豊かである。指使いはたいへん滑らかである。<u>感じたことを表現へとつなげさせたい。</u></p>	<p>タンギング 拍の流れの意識</p>
<p><b>児童 B</b> … <u>止まらないで全部吹けるようにしたい。</u> 一定の息で大きな音を出して演奏できる。指使いの間違いに気づき始めたので、<u>正しい指使いで生き生きと演奏させたい。</u></p>	<p>正しい指使い 表現の楽しさ</p>

アンダーラインは個の目標である。波線は、児童相互のかかわりにより高めてほしい子供の姿。

【教師の支援】

資料 グループ編成の1つ

第5時の1時間で、児童Cは、児童A、Bに褒められたり励まされたりして目標通り、止まらないで全部を演奏することができた。「正しい指使い」をしようと根気よく「卵の手」で、練習が進められていた。

また、児童AやBも、自分の目標を意識したグループ練習を一生懸命行い、1時間での進歩に満足感を持つことができた。資料 や資料 からは、自分の目標とする演奏を友達の演奏の中に見つけていること、児童Aが、自分のグループだけでなく学級の友達の目標も心に留めてその子の上達を優しく見守り、教え合って学ぶことに意欲を感じていることが分かる。

(略) -児童Dの演奏の発表後-  
T:よかったところを教えてあげて。  
児童A: くんは、今日は2列目をがんばるってはじめに言っていたから、そこを聴いていたんだけど、前より上手になっていました。

(略) -児童Aの演奏の発表後-  
C:ソミ ソミ が、かっこうって聴こえてよかったです。  
C:全部上手に揃っていいなと思いました。  
児童B: 私のためには、はねないようになんですけど、Aちゃんははねていないので、私もそういうふうには吹きたいです。

資料 第5時の授業記録

いきをいっしょうけんめいすいながら、はじめてきれいにできたよ。  
れんしゅうのとき、頭の中でかっこうってうたって、Bちゃんのひいているのを合わせてきいたら、本当にかっこうってきこえたよ。Cくんは、ことばがいているときにいきをすって、強くふいているところがいい。まだかんべきじゃないから、みんなのを見て、アドバイスしたいし、みんなのいいところをまねしたい。

資料 児童Aの学習カード



資料 拍をとったり、階名唱をしたりしてあげる児童

### 3 授業を終えて

この日の清掃の時、雑巾がけを待つ間にある児童が「かっこう」を無意識に階名で歌いながら、指を動かし始めた。これを見つけた児童は、隣に並んで同じように指練習を始めた。同じグループで練習した仲間同士であり、すんなりとけこんでいく。教師がそばについていないと吹く意欲を持たなかった児童のこの変化が、とても嬉しかった。パソコンソフトを使ったグループ学習をしたことで、児童の意欲はたいへん高まり、持続していた。

グループ分けを工夫したり、練習の成果を発表し、良いところを相互に認め合ったりしたことで、演奏技能を高め合うことができた。また、本ソフトは、目で見て確認できるので、視覚的にとらえやすく、それにより他の児童へのかかわりを広げることができた。